

豊能町成人式

「はたちのつとよい」

1月14日、ユーベルホールにおいて豊能町成人式を開催しました。

当日は、スーツや色鮮やかな振袖に身を包んだ新成人209名の出席があり、大人への新たな一歩を踏み出しました。

また、会場では久しぶりにあう旧友とともに写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせる姿があちらこちらで見られました。

「ピアノ伴奏」

菅江 真理奈さん
(光風台)

式典は、ピアノ伴奏による「君が代」の斉唱から始まりました。



「新成人のことば」

中西 美夏さん
(牧)

(牧)



本日は、成人を迎えた私たちの門出に際して、このような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。また、多くの方々からお祝いや激励のお言葉を多数いただき、大人への第歩を踏み出した私たちは身の引き締まる思いです。田中町長をはじめご来賓の方々、ご来席いただきました皆様、そして私たちの周

りの多くの皆様に、新成人を代表して心より感謝申し上げます。

さて、新成人の皆さんは20年という時間をどのように感じていますか？私は、二十歳になるのは随分先のことだと思っておりましたが、今はもうその時が来たのかと、忙しなく過ぎた日々を懐かしく思い返すばかりです。私は生まれてからこの自然豊かな豊能町で暮らしてきましたが、大学に進学するにあたって一人暮らしを始めました。なんとなくずっと憧れていた一人暮らしの生活は、今までいかに自分が親に甘えていたのかを知る機会となりました。当たり前のように思っていた生活の全てが与えられたものだったこと、家族の顔が毎日見られる安心感、私をいつも慈しみ心配してくれる家族の優しさ、そして毎日交わされる何気ないあいさつ、特に「おかえり。」と言う言葉の温かさ。今では全てが大切でありがたく思えるようになりました。改めて感謝いたします。

私たちが今日の日を迎えることができたのは、いつも支え導いてくださった先生や地域の方々、友達、そしてかけがえのない家族のおかげです。私たちはこれから社会へ旅立ちますが、この感謝の気持ちと、ここ豊能が私たちの原点であることを忘れず、今度は皆様に御恩をお返しするつもりで、社会に貢献することをここに誓いいたします。

話は変わりますが、私たちはこれからより多くの人々と出会い、さまざまな経験をすることでしょう。今までは保護者や社会に守られ甘えておりましたが、成人になったこれからは、当然ですが常に責任を持った行動をとらなければなりません。アップル社の創設者の一人である今は亡きスティーブ・ジョブズ氏は生前、その素

晴らしい功績と数々の名言を遺したことで有名です。彼は言います。「今日が人生最後の日だとしても、今からやることをやりたいか？」これは、迷いを打ち砕く言葉であり、自分自身の背中を押す言葉なのです。今私たちの中には、もう就職している人もいれば、学生の人、夢を追っている人、夢を探している人もいます。それぞれが様々な思いを抱き、悩んでいることと思います。ですから何か迷ったときには、この言葉を常に自分に問いかけ、最善の選択をし、決断力と行動力を身に付け、悔いのない人生を歩むことが大切だと思います。

最後になりましたが、私たちは一人ひとり本日新しいスタートラインとして、自らの未来に期待し、胸を膨らませそれぞれの人生を一杯邁進いたしますが、まだまだ未熟です。どうか今後とも良きご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。本日は、皆様からいただきました深く心に刻み、今後つまずいても顔を上げ、胸を張ってまっすぐに生きてゆくことをお約束して、私のことばとさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

「新成人のことば」

山岡 寛典さん
(新光風台)

(新光風台)



先月、初めての国政選挙に行きまして。選挙に行けることを待ち望んで二十歳を迎えたわけではありませんが、投票用紙を目の前にしたときには、自分もとうとう大人の入り口に立ったのだという責任感のようなものが芽生えてくるのを感じました。

二十歳になったのはもちろん、昨年の私の誕

生日でしたが、その頃はまだ成人になったことへの自覚はさほどありませんでした。しかしその後、国民年金の納付案内書や町長選挙・衆議院選挙の投票案内書と、成人として果たすべき義務や権利といったものが目に見える形をとって私のもとに届けられるようになります。そのたび「あなたはもう、大人ですよ」と言われているような気分になり、少しずつ自分が成人を迎えたことを確認していったのです。

さて、成人になるにあたって、私はもう少し自分の意思をもち、自分と関わることに対して「とことん」行動してゆこうと考えました。私が読んだ茨木のり子さんの詩の中で考えさせられるものがありましたので、その一部を紹介させていただきます。

「生まれてこのかた なにに一番驚いたかと言えば 水一滴もこぼさずに廻る地球を外からパチリと写した一枚の写真 こういうところに棲んでいましたか。これを見なかつた昔のひとは 線引きできるほどの意識の差が出てくる筈なのに、みんなわりあいぼんやりしている」

今まで何事に対しても、冷めた視線で「ほどほど」に取り組み行動してきた自分に、これいいのかと問われているかのように感じてドキリとしたのを覚えています。

また、ジャンルは全く違いますが、高校時代に出会った「けいおん」というマンガにも考えさせられました。軽音部に所属する五人の女子高生の日常を描いた作品ですが、特にドラマチックな展開があるわけではありません。なのに、強く惹かれました。心から自分たちの日常を楽しんでいる彼女たちの姿に羨ましさや憧れを覚えただけからかもしれません。

ページをめくりながら、こんな風に自由に生きていけたらいいなと思いつつも、多分それは私

の現実では無理なんだろうと思いました。自分から何かに関わっていかうとする意思をもたない限り、無理なんだろうと思いました。

今一度この節目を機会に、多くのこと、多くの人々に自ら関わっていかうと心新にしています。そして「とことん」納得のゆくまで行動していくつもりです。人生はアミダクジみたいなものであると、ある哲学者も言っていました。すごい人やすごい本に出会うことで、自分の地盤がポーンとずれて別の軸に移ることがあるというのです。このように自分自身の端緒がたえず更新されていく経験をしていきたいと考えています。

最後になりましたが、成人を迎えました私たちの門出に対し、本日、盛大な式典を催していただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「謝辞」

西端 優さん

(光風台)



本日は成人を迎えた私たちの門出に、このような盛大な式典を催して頂き誠にありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉を頂きました町長をはじめ御来賓の方々、さらに多数のご来賓をたまわりました皆様に、新成人を代表して心より感謝申し上げます。そして、今日まで私たちを育て、励まし、御指導くださいました家族、先生方、地域の皆様に、本日私たちが成人を迎えたことをご報告するとともに、今あらためて強く感じております感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

昨年を振り返りますと、ロンドンで開催されたオリンピックでは多くの選手が活躍し、日本を盛り上げてくれました。中でも日本初銀メダル

を獲得した女子サッカー、史上初の快挙である13連覇を成し遂げたレスリングの吉田沙保里選手の活躍からは、たくさんの勇気をもらいました。そして彼らの偉業は、努力を惜しまず日々精進し、決して諦めなかつたからこそ勝ち得た栄光であるという教訓を、私たちに残してくれました。

私たちは今、それぞれの夢に向かって大学、専門学校などで日々様々なことを学んでおり、また就職し夢への一歩を踏み出した者もいます。しかし、私はまだまだ自分のことに精一杯で回りを見る余裕を持てずいます。ですが、この町を出、外の世界を見たことで初めて自分が育った環境がいかに恵まれたものであつたか気づきました。そして同時に、もつと世の中を知り、世の中の流れを読み取る力を養わなければならないことにも気づかされました。

私たちはまだまだ未熟です。一人の大人として社会に出るには至らない部分が数多くあります。だからこそ、二十歳という大きな区切りに立つた今、これからの社会を動かしていくのは自分なのだということを一人一人が実感し、厳しく自覚しなければならぬと考えます。この豊能町に、大阪に、そして日本の為に何ができるかということをも視野に入れながら自らの道を選び取り、一步一步歩んで行きたい、そして先にお話しいたしました日本の選手方の、努力を惜しまず決して諦めないという姿勢を肝に銘じてこれからは進んで参りたいと思います。

今日という日を、大切な友達と共に迎えられること、また新たな気持ちで踏み出す機会を頂けました喜びと、感謝の気持ちを添えて、簡単ではございますがこれをもちまして私の謝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。